

第21節 非常コンセント設備

1 設置位置等

設置位置等は、政令第29条の2によるほか、次によること。

- (1) 階段室，非常用エレベーターの乗降ロビー，階段室の附室内または当該部分から5 m以内の場所に設置すること。
- (2) 特殊な階層（共同住宅等で，共用廊下部分または住戸等の出入口が2階層または3階層ごとに設けられているもの等）で，非常コンセントを各階ごとに設けることが適当でない認められるものにあつては，当該階の各部分から，前(1)の部分に設けるコンセントまでの歩行距離が50m以下となるように設けること。

2 電源の供給容量

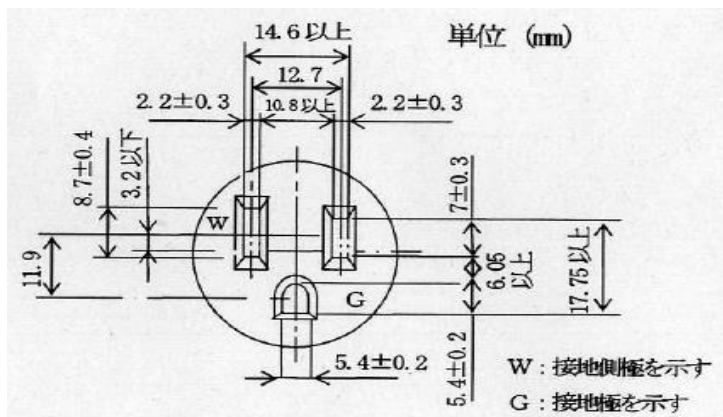
非常コンセントの電気の供給容量（非常電源の容量算定にあつても同様とする。）については，単相100V，15A以上の容量とすること。同一階に非常コンセント設備の保護箱を2個以上設置する場合は，2系統以上（同一階の保護箱の数だけの専用回路）とすること。

なお，1系統につき保護箱は，10個以内とすること。

3 非常コンセント

非常コンセントは，次によること。

- (1) プラグ受けは，JIS C 8303の接地形2極コンセント（JIS C 8303：2極接地極付差込接続器に限る。）のうち定格が15A，125Vに適合するもので，極数および極配置は，第21-1図によること。



- (2) 保護箱内には，前(1)のプラグ受けを2個設けること。

4 接地

前3のプラグ受けの接地極には，D種接地工事を施すこと。

5 保護箱

保護箱は，次によること。

- (1) 保護箱は，耐火構造の壁等に埋め込むかまたは「配電盤および分電盤の基準（昭和56年消防庁告示第10号）」第3. 1. (2)に準じたものを設けること。ただし，火災の影響を受けるおそれの少ない場所にあつては，この限りでない。
- (2) 保護箱に用いる材料は，防せい加工を施した厚さ1.6mm以上の鋼製のものとする。
- (3) 保護箱には，容易に開閉できる扉を設けること。

- (4) 保護箱内には、差込プラグの離脱を防止するためのフック（L型またはC型）等を設けること。
 - (5) 保護箱には、D種接地工事を施すこと。
- 6 電源および配線
- 電源および配線は、電気工作物に係る法令の規定によるほか、次によること。
- (1) 電源からの回路は、主配電盤から専用回線とすること。ただし、他の消防用設備等の回路を接続する場合で、当該回路による障害を受けるおそれがないものにあつては、この限りでない。
 - (2) 前(1)回路には、地絡により電路を遮断する装置を設けないこと。
 - (3) 電源の配線用遮断器には、非常コンセントである旨、赤色の文字で表示すること。
 - (4) 専用回路の幹線から各階の非常コンセントに分岐する場合は、分岐用の配線用遮断器を保護箱内に設けること。
 - (5) 非常用コンセントのプラグ受けは、前(4)の配線用遮断器の二次側から送り配線等で施工すること。
 - (6) (4)の配線用遮断器は、100V、15A以上の容量とすること。
 - (7) 受電用配電盤等に設けた各系統別引出し用の配線用遮断器と各階に設置する非常コンセント用の配線用遮断器とは、保護協調をとること。
 - (8) 分岐する場合に用いるプルボックス等は、防せい加工を施した厚さ1.6mm以上の鋼製のものを用いること。
 - (9) 保護箱内の配線およびプラグ受け等の充電部は、露出しないように設けること。
- 7 幹線容量
- (1) 幹線は、1回路につき、各階に設ける非常コンセントに100V、15A以上の容量を有効に供給できる電線を用いること。
 - (2) 幹線容量は低圧で電気の供給を受けている場合は、電圧降下を標準電圧の2%以下となるように選定すること。ただし、電気使用場所内に設けた変圧器から供給する場合は、3%以下とすることができる。
- 8 非常電源回路の配線
- 省令第31条の2第8号に定める非常電源回路の配線は、第23節非常電源の基準により設けること。非常電源の配線用遮断器は、保護箱の配線用遮断器より先に遮断しないものとする。
- 9 表示
- 表示は、次によること。
- (1) 保護箱の表面に表示する「非常コンセント」の文字の大きさは、1文字につき各辺の長さが2cm以上の大きさとする。
 - (2) 保護箱の上部に設ける赤色の灯火は、第2節屋内消火栓設備の基準の赤色の灯火に準ずること。
 - (3) 灯火の回路の配線は、第23節非常電源の基準によるほか、6.(4)配線用遮断器の電源側から分岐し、当該分岐回路にはヒューズを設けること。
- 10 総合操作盤
- (1) 総合操作盤は、省令第31条の2第10号の規定により設けること。
 - (2) 総合操作盤は、防災センター等に設けること。

(3) 電源断の状態表示については、幹線系統が2系統以上の場合、幹線ごとに監視できるよう検出回路を設けること。

11 消火栓箱等と保護箱の接続

非常コンセントの保護箱を消火栓等に接続する場合は、次によること。

- (1) 保護箱は、消火栓箱等の上部とすること。
- (2) 消火栓部分、放水口部分および弱電流電線等と非常コンセントは、不燃材料で区画すること。
- (3) 消火栓部分の扉と保護箱の扉は、別開きができるようにすること。
- (4) 非常コンセント設備の赤色の灯火は、第2節屋内消火栓設備の基準に定める赤色の灯火と兼用することができる。